

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4390100297
法人名	株式会社ヴィーヴル
事業所名	グループハウスあい
訪問調査日	平成 20 年 1 月 22 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年2月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4390100297		
法人名	株式会社ヴィーヴル		
事業所名	グループハウスあい		
所在地 (電話番号)	熊本市田迎1-7-20	(電話) 096-377-5022	
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本市水前寺6-41-5		
訪問調査日	平成20年1月22日		

【情報提供票より】(平成20年1月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年1月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤5人 非常勤7人 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	2階建ての	1階～階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有15000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月22日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	9 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名	
要介護3	1 名	要介護4	1 名	
要介護5	1 名	要支援2	1 名	
年齢	平均	84.5 歳	最低	77 歳
			最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	慶徳加来病院 おのうえ歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

訪問介護・訪問看護からスタートした法人が主催する当該ホームは、その経験上高齢者の居宅生活を熟知し、理念の中で家族としての喜怒哀楽や家族としての一日一日を大切にし、ケアのプロとして一人一人の入居者を大切にしている。熊本市内の、利便性が高く周囲に緑の多い静かな住宅地に位置し、開設してわずか一年ながらISO(国際標準化機構)の認証を取得し、質の高い介護サービスの提供を行なっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価としては今回が初めてであるが、開設半年の時点で自発的に自己評価を行ない独自の理念作成に繋げる等、積極的姿勢が確認できる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は自己評価の意義について職員と話し合い全職員で評価に組み込み、ケアの質の向上に向けて多くの気付きの共有が見られる。運営推進会議での報告もなされ、早速具体化に着手した項目も確認でき、意欲的な姿勢が見られる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 民生委員・校区社協長・協力医療機関の医師・包括支援センター職員・家族代表をメンバーに迎え、2ヶ月に1度運営委員会を開催し、ホームの生活状況を報告し理解を深めると共に、参加者からホーム運営への助言を得ている。成果として、校区の安心メールに登録し、情報を共有できる体制が可能になった。また、民生委員を仲立ちにホーム職員の有するノウハウを地域に貢献する方法を考えるなど、着実に地域密着型としての基礎作りへの努力が見られた。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 2ヶ月に1度と家族会を頻回開催し、その出席率からも家族の関心の高さと協力が伺える。家族会ではアンケートをとり、積極的に家族意見を集めて運営への参考にしている。家族同伴の外出を実施し、家族にホーム行事の実際を知る機会を作って意見の汲み上げを図っている。入居者の近況を毎月担当職員が手紙で報告し、関係作りを努めている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の催し(夏祭りやどんどや等)には積極的に参加し、自治会や老人会にも働きかけを行ない地域に溶け込もうという意欲が確認できる。運営推進会議等を通じ連携が構築されつつある。今後の継続した取り組みに期待が持たれる。近隣住民とは、野菜をいただいたり柿ちぎりに誘ってもらったりと、良好な付き合いがあり、孤立感のない生活が営まれている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、開設当時法人の理念をホームの理念として掲げていたが、入居者の生活形態が整った半年後、職員間で「家族として暮らすために何が大切か」を話し合いホーム独自の理念を作り上げている。	○	グループホームの理念に「地域との関連性」を加えることで、地域密着型サービスとしての役割や存在が明確化されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎朝職員全員で唱和することで、一日のケアの具体化に向け意識付けを行なっている。また廊下に理念を掲示し来訪者や家族にも周知を徹底することで、職員の自覚を一層高めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや校区運動会、どんどや等の地域行事に積極的に参加し、地元との関係作りに努力を払っている。地域清掃活動などでは職員も率先し役割を担っている。また地域の子供たちのピアノ発表会にホームを利用してもらい、利用者と子供たちが楽しく交流する場を作るなど関わり作りに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	よりよいケアになるよう振り返りや見直しという評価の意義を伝え、職員に項目毎に自己評価を割り振った後、全項目を読み合わせ、100項目に対し丁寧な自己評価を行なっている。昨年七月にも自己評価を実施し、独自の理念作成という大きな成果をあげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、入居者の状況やサービスの提供内容について報告すると共に、参加者から意見を引き出し今後の運営に繋げようとの意欲が感じられた。地域社会福祉協議会長を始めとする委員からのアドバイスを積極的に活用しようとする姿勢が確認できる。	○	多方面からの意見を収集するためには、議題に関係する職種のスポット参加(警察、消防等)や、行きつけの商店主、近隣住民の参加を求めることで委員会の更なる有効活用が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	熊本市の介護相談支援員と連携をとり、共にサービスの向上に取り組んでいる。市の担当者と報告・相談等で連絡を取り合い、特に事故の報告は迅速に行ない、共に問題解決に向かう姿勢が見られる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月請求書と共に、「あい新聞」と担当職員からの手紙を送付し、ホーム全体の暮らしぶりや個々の入居者の様子・体調等報告し、家族の安心に配慮している。預り金に関しては、従来使い道の報告のみであったが、家族の意見を取り入れ残金も報告し、分かりやすくなっている。	○	職員の異動は家族会で報告されているが、出席していない家族のためにも簡単なプロフィール・顔写真等添え、家族に送付することでより信頼感や親近感も増すと思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を2ヶ月に一回開催し、家族と職員のみならず家族間で話し合い交流できる場を設けている。また家族会でアンケートを実施し、積極的に意見を汲み上げようとする姿勢が確認できる。介護相談支援員の訪問予定を家族に報告し、外部者への意見・苦情を話せる場があることを毎回伝える取り組みもある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動にあたっては適性を重視し、やむを得ない場合に限るよう配慮している。系列の事業所の職員とは、旅行等の行事を共に実施することで日頃からなじみの関係構築に努力し、異動における利用者へのダメージを防ぐ工夫を行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議で統一したチームケアを行なうためのコミュニケーションスキルについて学んでいるほか、ホーム内でも勉強会を開催し、「高齢者の疾患」「認知症全般」等、テーマを決め職員の質の向上に努めている。働きながらの学びも重視し、OJTで実践力をつける取り組みも行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市内のグループホーム連絡協議会に参加し、共に質の向上に取り組んでいる。協議会では、入居者が以前利用していた小規模多機能施設職員から情報収集する等、実践的な成果も得ている。他ホームとの交換研修にも取り組み、自己研鑽に努めようとの意欲が伺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面接を大切にし、相談受付シートを作成することで情報の共有化を図っている。入居者に関する情報は、本人・家族はもとより以前に利用した施設からも聞き取りを行ない、関係作りに努めている。また必要に応じて利用前にホームの生活を体験してもらう期間を設け、徐々に馴染んでもらえる工夫も行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員や他の入居者を気遣いながら進んで洗い物をして入居者や、特技を活かし講演会のタイトル書きを依頼され立派にこなす入居者など、各場面で支え合う関係が構築されている。職員への聞き取りの中「笑顔がいっぱい見えたことがうれしい」「レクリエーションを楽しんでくれたことがうれしい」と入居者の気持ちに寄り添う言葉が多く聞かれた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当の職員を中心に、本人の言葉や様子、訪問した家族との会話から「歌番組が好き」「外出が好き」「親族に会いたい」等の思いや意向の把握に努めている。『私の姿と気持ちシート』を現在作成中であり、シートの活用でさらに気持ちに即した支援に繋がることが期待される。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	評価を日常的に記録できる介護記録の様式に工夫が見られると共に、月に1度のモニタリングでは家族の意見も取り入れ、介護計画の作成に生かしている。また毎月のケースカンファレンスでもケアプランの実施状況について職員間で話し合い、チームによる介護計画の作成が確認できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	昨年11月から採用されたオリジナルの介護記録により、日々計画の評価を記載することで入居者の変化に対応し、介護計画の見直しに活かせるよう工夫されている。短期目標に合わせた介護計画の見直し前でも、毎月のカンファレンスで必要に応じた見直しが検討されている。	○	時間をとらず書き込み易い介護記録が工夫されているが、十分な活用に至っていないように見うけられた。一枚の様式で全てが分かる工夫があるので、更なる活用が期待される。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、入居者や家族に負担となる病院受診を減らし、往診診療を受けられる支援がある。また訪問美容サービスの受け入れ、個別の外出支援など柔軟なサービスを行なっている。地域に対しても、民生委員の質問を受け、認知症学習等で貢献できる旨働きかけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約医療機関はあるが、入居前からのかかりつけ医との関係も重視し、かかりつけ医の往診も受けられるよう支援されている。往診に際しては看護職員を中心に医師との情報交換を行ない連携に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期にむけ、家族会等で早期に話し合う場を設けている。必要に応じ、急変時における対応についての同意書をかわし、家族の不安感の軽減にも努めている。	○	ターミナル期の夜勤に関しては、介護職員のなかには不安を感じる事が多々あることが推察される。今後更に将来を見据えた研修・話し合いが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライドを傷つけないこと、無理強いしないことに事業所全体で取り組み、訪問当日も入居者と職員の会話は穏やかな印象を受けた。入居者を見守りつつ記録する職員の姿も見うけられたが、家族の来訪も多く、個人情報に関するコンプライアンス(法令遵守)の徹底に一層の注意が必要かと思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの起床時間に合わせ、自由な時間に朝食を摂る等、個別性のある対応があり、本人のペースが大切にされている。希望に沿った支援になるよう、家族からも話を聞く、フェイスシートで情報を共有する、とりあえず誘って本人の気持ちを尊重する等、様々な試みを行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食は配食サービスを利用し、配膳や後片付けでの協働が確認できる。職員は弁当持参等で、入居者と同じ食事をするシステムにはなっていない。配色サービスではあっても、入居者の状態に合わせた刻みやおかゆなどの工夫はなされている。	○	現在月に1度は入居者の希望の食事をホーム内で作っているが、グループホームの特性を踏まえ、一緒に食材選びや調理を行ない、同じ食事を楽しむ場面を更に増やすことを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決められた入浴日等はなく、午前中から夕食前まで希望に応じ、家庭のお風呂と同様一人ずつゆったり入浴できる支援がなされている。入浴剤も常備し気持ちのよい入浴への対応が見られた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの趣味や生活歴を活かし、習字や編物、縫い物や塗り絵等、楽しみごとが生活の張りになるよう工夫し支援している。近所の住民の協力による茶摘みや柿ちぎり等の季節を感じられる楽しみ事も提供され、生活のアクセントとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	開設当初の「みんなで一緒に」というスタンスから、「一人ひとりの行きたい所へ」という個別性のある支援へと職員の意識が変化し、希望に沿った買物や散歩、ドライブ等の日常的な外出支援の他、動物園や観劇、温泉等の利用者と職員が共に楽しめる外出も毎月取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のセンサーや校区内の安心メールによる情報共有で安全面に工夫し、鍵をかけないケアを実践している。外に出たくなることの多い入居者の情報については職員間で共有し、注意を払う等配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	119番専用の赤電話を設置し、誰もが同じ手順で緊急連絡ができるチャート図を貼るなど、救急の連絡に備える工夫が見られる。ホーム2階のグループリビングの火災報知器の誤作動に際し、地域住民が集まってくれる等、周囲の理解と協力体制が出来つつあると思われる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は入居者毎に毎日記録すると共に、毎月の体重測定を実施し、体調の管理に努めている。職員は本人の自立した食事摂取を応援しているが、途中疲れた入居者にはそっと介助する姿もあり、一人ひとりの状態に応じた支援が見られた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内はバリアフリーになっており、車椅子でも楽な移動が保証されている。ソーラー床暖房の導入で環境に配慮し、自然な暖かさが提供されている。ソファカバーやクッション・食卓のランチョンマット等、温もりが感じられる工夫が見られる。またソファや食卓は、状況に応じ配置を変えることで、入居者の活動や相性等に配慮していることが確認できる。	○	ホームがスタートしてほぼ一年が経過した今、手作りの足乗せ台へのカバーや、行事の写真を飾り楽しい思い出をふり返ることへの工夫等、細かい部分での「あい」らしい生活感を出していかれることに期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	片付け好きな入居者のシンプルな部屋、愛用の小物やぬいぐるみ、持ちこまれた家具に囲まれた部屋等、それぞれが個性的で、一律でない支援がなされていることが分かる。今後とも家族・入居者と話し合い、居心地のよい部屋作りを目指していく意向が確認できた。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループハウス あい
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本市田迎1-7-20
記入者名 (管理者)	内田 優子
記入日	平成 19 年 12 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社の理念に基づいた上で、地域の中で安心してその人らしい暮らしができるよう、家族と一緒にすごしながらサポートしていくことを事業所の運営理念として掲げている	○	地域密着型サービスの意義を職員全員が理解し、事業所の理念に基づいたケアによって利用者が住み慣れた地域で安心した暮らしが継続できるようにしていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、出勤者全員で理念を復唱し、実践に取り組んでいる。	○	理念の読み上げを継続し、実践に取り組んでいきたい。また、日々のケアの中で理念が反映されているかを、ミーティング等で確認する機会をもつようにしていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所内（廊下）に理念を掲示し、訪れた家族や地域の方には目に付くようにしている。また、運営推進会議や家族会でも説明したり、家族向けの事業所便りに掲載し、理解して頂けるよう取り組んでいる。	○	地域向けの広報紙を発行するなどして、地域の方にも理解を得られるようにしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方々など、ハウス前の道を通るかたには、こちらからあいさつをするよう心がけている。また、散歩時など、近所の方々からも声をかけて頂いている	○	これからも、積極的に声をかけるなどして、気軽に立ち寄って頂き、日常的な交流が出来る関係作りをしていきたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会へは、地域活動への参加をしたいという希望は伝えている。運営推進会議や民生委員さんとの交流の中で、徐々に地域の中にとけ込んで行くようにしている。	○	地域の行事（夏祭り、清掃活動等）に参加することで、地元の人々と交流することに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域行事の際に、役立つことがあれば協力することを自治会や老人会へは伝えている。	○	地域行事のある時や、会合等が開かれる時に、機会があれば認知症に関する相談を受けたり、介護に関する助言等が出来ればよいと思う。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組めるよう、評価項目の読み合わせを行って理解できるように努めた。	○	評価の意義を全職員が理解し、全員で自己評価に取り組む。また、評価後に改善に向けた話し合いをもち、計画的に出来るだけ早く取り組んでいきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の近況報告・サービスの実践内容について報告を行い、委員の方々に率直な意見を頂き、サービス向上に活かしている。	○	地域の住民の方々にもう少し会議に参加して頂き、多方面からの意見を頂けるようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での地域包括支援センターとの連携が主になっている。運営上の疑問点などあるときは、市の担当者の方に電話での問い合わせをすると、親切に答えていただいている。		市の担当者とは連絡を密にしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等に出来るだけ参加するようにしている。研修に参加した職員は学ぶ機会があるが、全体として知識は不十分である。	○	会社内または事業所内での勉強会で、全職員が学ぶ機会を設けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会がもてていない。事業所内では虐待が起こることがないように勤めている。	○	勉強会を行い、虐待防止の知識の共有が出来るよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族を中心に、十分な説明を行い、理解・納得を得ている。	○	出来る限りご本人にも同席していただいて、十分な説明と理解・納得を図っていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1対1または少人数でゆっくりと話す時間を対できるだけつくり、入居者からの意見や不満、苦情を聞きやすい態勢を作るようにしている。又、市から派遣される介護相談支援員を受け入れ、不満や苦情を外部者へ表せる機会を設けている。	○	1対1または少人数でゆっくりと話す時間をできるだけつくり、入居者からの意見や不満、苦情を聞きやすい態勢を作るようにしている。又、市から派遣される介護相談支援員を受け入れ、不満や苦情を外部者へ表せる機会を設けている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、新聞の発行とそれぞれの入居者のご家族に、担当者が1ヶ月の暮らしぶりや健康状態を、お手紙で報告している。又、お預かり金の出納帳は2ヶ月に1回家族会議で、または面会に来訪されたときに確認していただいている。	○	今後も継続して、密に報告を行っていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口については、事業所内の窓口と、行政の窓口を入居の際に説明し、いつでも受け付ける態勢にある。又、市から派遣される介護相談支援員を受け入れ、不満や苦情を外部者へ表せる機会を設けている。	○	意見、不満、苦情を表しやすいような態勢に努めていきたい。ご意見箱を設置し、要望などを気軽に出示していただくようにしている。又、家族会等で、ご意見や要望等をおききするようになっていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	そのつど意見や提案があれば聞くようにしている。又、週に1回はミーティングを行い、意見を反映させている。	○	スタッフが意見や提案を表しやすい雰囲気作りを心がけたい。週1回のミーティングは継続し、話し合いをする時間を持つようにする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況によっては、勤務時間の調整を行っている。	○	利用者のニーズや生活時間に合わせた柔軟な体制がとれるよう、勤務体制の調整を行っていく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフはほぼ固定しており、なじみの関係の中でのケアを心がけている。職員のやむを得ない事情による理由以外での離職や異動は行われないよう努力している。		継続していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は段階に応じた研修を受ける機会がつかれないが、社外である研修については職員全員に声を掛け参加を募って希望の研修を受けられるようにしている。	○ 年間教育計画を立て、社内での段階に応じた研修に積極的に参加していく。また、日々の仕事をしていく中で、OJTとしての指導等を密に行っていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県主催のグループホーム連絡協議会や、市のブロック会に参加し、他のグループホームの職員との交流を図ったり、勉強会に参加してサービスの質の向上を図っている。	○ 他グループホームと、相互での職員の現場研修を行うなどして交流を深められるようにしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々の業務での相談等、気軽に出来るようにしている。また、社内での別の事業所への行き来もしやすく、ちょっとした気分転換ができる。	○ ストレスが溜まらないよう、職員間での交流が出来たり、短時間でも休憩時間を設けてゆっくり過ごす時間を持ち、気分転換が出来るようにする。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	事業所にはほぼ毎日来て、入居者の状況を把握した上で、職員の勤務状況や努力の把握に努めている。また、個人の業務日報にコメントを残すなどして、職員が向上心を持って働けるように努めている。	○ 今後も引き続き職員が向上心を持って働けるよう努めていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ず面接を行い、本人の生活に対する要望や困っている事・不安なことについてじっくりと話を聞き、受け止める努力をしている。	○ 本人が安心して利用ができるよう、さらに努力をしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ず面接を行い、家族の生活に対する要望や困っている事・不安なことについて話をよく聞き、受け止める努力をしている。	○ 家族が安心して利用ができるよう、さらに努力をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族、または担当の居宅ケアマネジャーからの情報を元に必要としている支援を見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。	○	社内の他事業所のサービスもあり、必要に応じて利用していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に関して、本人にどのように説明してあるかをご家族より前もってお話を聞いておき、他の利用者とは職員が時々介入したり、ご家族と一緒に過ごしてもらう時間をとるなどして関係作りができるようにしている。	○	継続していく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の生活を通して一緒に過ごしたり、家事やレクリエーションと一緒に取り組むことで、人生経験豊かなご本人より教えて頂いたりしながら、共に支え合う関係を築いている。	○	ご本人の得意とするものを引き出し、力を発揮できるよう支援し、支え合う関係を築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	寝具や衣服の季節よりの交換や、誕生日会、野外活動と一緒に参加して頂いたりして、共に支える関係を築いている。	○	ご家族もケアチームの一員として、ご家族の思いを受け止め、家族としての役割を持って頂きながら、一緒に支えていく関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご入居時に、これまでの本人と家族との関係について記入するアセスメントシートを記入して頂き、今までの関係を理解した上で、面会時に、ハウスでの暮らしぶりをお伝えしたりしながら、よい関係が築いて行けるよう支援している。	○	本人の状況を頻繁にお知らせし、良い関係が保たれるよう支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や親戚、ご友人の面会をして頂いたり、ご家族により、なじみの人をお連れして頂いたりしている。	○	ご家族が遠方に居住していたり、健康上の問題で面会に来られなかったりする入居者については、職員が支援できるよう努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席や、外出時のグループ分けなどに配慮しており、利用者同士の関係を職員が把握し、気分の変化に注意しながら、関係がうまくいくよう支援している。利用者同士の支え合いの場面も日々見られる。	○	利用者間の関係を職員が良く把握し、良い関係を保てるよう、職員の介入しすぎないよう支援を続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院によって退居された場合も、面会やお見舞いに行ったり、ご家族の相談に乗ったりしている。	○	継続していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを第一に考え、出来るだけ意向に添えるよう、利用者と話し合う場面を作り本人の希望や意向の把握に努めている。また、それぞれの利用者について担当者を決めており、担当者を通じて、全職員が把握できるようにしている。	○	これからも、一人一人の思いや意向について、しっかりと把握できるよう努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや、家族に記入して頂いたアセスメントシート、また、在宅の時のケアマネージャーや入居前に居られた施設からの情報を得ている。また、家族の面会所や、本人から聞いたことを記録に残し、職員で共有できるようにしている。	○	アセスメントシート（センター方式）への記入を行い、ケアカンファレンスで情報の共有ができるようにしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、気分の変化に配慮しながら、本人状況にあった生活の支援を行えるよう努力している。	○	一人一人の心身の状態の把握に努め、個々に出来ることを見つけそれをのばすことが出来るよう生活の支援を行っていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現在の介護計画について、本人の思いを取り入れながらも、家族の要望が優先され、また、計画作成者が中心に計画を作成したものになっている。	○	それぞれの利用者の担当職員が中心になり、全員でカンファレンスを行い、本人も話し合いの場に参加して、本人の気持ちに添った介護計画を立てるように努めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて計画に対する評価を行い、必要に応じて見直しを行っている。	○	できるだけ、本人の状況の変化に応じた介護計画の見直しを行うようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入方法を工夫し、介護計画に有効に活用できるよう努めている。	○	記録の方法等、活用しやすいかを見直し、日々の実践に生かせるように努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時、どうしても家族が介助出来ない場合や、そのときの状況によっては送迎の支援等行っている。又、連携医療機関からの定期的な往診（内科・歯科）をしていただくことと、看護師の配置により医療連携加算をとり、健康管理の支援を行っている。	○	今後も、本人や家族からの要望を聞く機会を多く持ち、柔軟な対応を行っていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員と社協長に運営推進会議に参加していただくなどして、連携はとれている。	○	地域の中でのネットワーク作りがすすんでおり、メールでの連絡体制への登録を行い、積極的に参加・利用ができるよう取り組んでいる。また、警察・消防・教育機関等との連携・協力体制についても検討していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	会社内の他の事業所でデイサービスが開設されているので、催し物があるときは参加させてもらったり、時々サービスの利用をしている。	○	本人の意向があれば、必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーとも話し合い、他のサービス利用の支援を行っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、地域包括支援センターからも参加していただき、情報交換、協力関係を築いている。	○	今後必要があれば、ぜひ、地域法活支援センターに相談して協働出来るように努める。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の継続の可能性を説明し、本人・家族の意向を聞きながら受診の支援をしている。	○	かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医との連携は特になく、相談や受診が容易にできる体制ではない。しかし、内科の連携医療機関のDrとは連携がとれており、必要時には相談し、適切な指示や助言をいただいたりしている。	○	認知症に関する診断や治療、対処方法等、医療の対応が個々にできるよう認知症専門医の確保をしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員の配置あり、病状によっては指示を受けたり相談しながら、日常の健康管理を行っている。	○	継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に入居中の生活状況を伝え、入院中も安心して過ごせるようにする。又、早期に退院できるよう家族、入院先の医療機関と話し合いを行っている。	○	入院中、出来るだけ本人への精神的負担がかからないように、病院との情報交換を行う。また、病院関係者、本人、家族と話し合い、早期の退院への支援を行っていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者について、本人・家族とかかりつけ医と話し合いを持ち、方針を確認した上で職員全員で共有し、ケアにあたっている。	○	主治医との話し合いや家族の意向について、カンファレンスを持ちながら、職員全員で方針を共有できるようにしていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ミーティングの中で、支援のあり方についての検討を行い、職員の能力を考慮して「できること・できないこと」を見極めている。重度化した場合の方針や対応の方法について、個別での対応が出来るよう、記録に残して職員での共有と統一したケアが出来るよう検討中である。	○	重度化した場合の方針や対応の方法について、個別に話し合いを設け、本人・家族が納得のいく対応が出来るよう準備を行っていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅や施設などからグループホームに移り住んでこられる場合は、家族や以前おられた施設からの情報収集を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	○	今後、グループホームから別の居所へ移り住む際は、グループホームでの状況を詳しく情報提供を行うようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	社の理念にそって、個人の尊厳を第一に考え、言葉かけには十分注意しながら対応している。個人情報の保護についても十分注意している。	○ 今後も継続的な取り組みを行っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者にあった声かけを行い、本人の希望が聞きだせるようにし、自分で決めたりしやすいような言葉かけに心がけている。	○ 本人の希望を聞きだせるように声かけに配慮し、自己決定ができる場面を作り、納得して暮らせるよう支援を行っていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間・就寝時間など決まった時間にするのではなく、本人のペースに合わせて個人個人の支援を行っている。	○ 利用者の一人ひとりのペースを把握し、本人の希望に添った支援を行っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人・家族の希望を聞きながら、なじみの美容室に行けるよう努めている。	○ 継続していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を見極めながら、又身体的状況に応じて、料理の盛り付けや後片付けを職員と一緒にしている。	○ 食事が楽しみになるように、今後も継続して努力していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつ等では一人ひとりの状況に合わせて楽しめるように支援している。現在、飲酒や喫煙の習慣がある利用者はおられない。	○ 今後も利用者の楽しみの一つとして、状況や好みに合わせた支援を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェックシートを利用して排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導を行うなどの対応をしている。また、一人ひとりの能力に応じたパンツ・パット類の使用を検討している。	○	排泄のパターンをつかみ、タイミングよくトイレ誘導ができることで、本人が気持ちよく排泄できるよう支援を継続していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間を決めず、一人ひとりの状況や希望に添って、入浴できるよう支援している。	○	夜間入浴について、職員の勤務時間も考慮しながら検討していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝・消灯時間などは設けず、本人の希望に応じて就寝の援助を行う。休息はとれるよう、ある程度の時間になったら職員が声かけを行い、就寝の援助を行うようにしている。	○	継続していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を参考にしたり、能力に応じて家事での役割分担ができるようにしている。また、外出や行事など希望を聞いて楽しみを持った生活が出来るようにしている。	○	能力に応じた役割分担を検討し、ご本人が役割意識を持ち、張り合いのある日々を過ごせるようにしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金はハウスの方でお預かりし、個人で持っておられる人はいない。	○	買い物に行き、個人的なものを購入する際には、ご本人に払って頂くなどして、お金を払う場面をつくるようにしていく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ハウス周辺の散歩や、お地藏さん参りにはほとんど毎日かけている。その日の希望によって散歩コースを変えたりしながら支援している。	○	これからも、継続していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出行事計画を立て、できるだけ月に1回は少し離れたところや童謡コンサートや動物園、演劇の観劇などに、ご家族にも声を掛けて出かけている。	○	個別での対応はまだ行っていないので、それぞれご家族も交えて希望を募り、外出する機会がもてるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハウス内に公衆電話の備え付けもあり、家族や友人への電話をかける支援を行っている。	○	継続していく
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等の制約は設けて居らず、いつでもどなたにでも訪問して頂くように家族にも伝えている。また、面会時は自室でゆっくりお話しして頂くか、リビングの一部を開放して場所を提供し、ゆっくりと過ごして頂くように配慮している。	○	継続していく
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してある程度の認識を持ち、身体拘束は行わないケアに取り組んでいる。	○	身体拘束に関する勉強会を行い、職員全員でしっかりと理解した上でケア行っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。外に出ようとする時はできるだけ、職員が同行するようにしている。	○	徘徊の習慣のある方への支援が難しいときがあるが、日中の施錠は行わないようにし、職員の同行しての支援など、その都度解決策を検討していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の安全、居場所の確認を行い、夜間は随時巡回を行って安全に配慮している。	○	継続していく
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時に危険性の在るものは持ってきて頂かないように説明してある。はさみや包丁などは、職員が目が届く台所やリビングで使って頂くようにしている。	○	継続していく
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告、事故報告書を直ぐに記入し、今後の対策などの情報を共有している。	○	社内の事故対策委員会への参加を積極的に行ったり、ヒヤリハット、事故報告書をミーティング時に取り上げて今後のケアにいかしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法の学習を消防署から指導に来て頂き、学習している。	○	職員全員が講習会に参加するなどして知識を身につけ、事業所内でも定期的に勉強会に組み込み訓練を行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署からの指導もあり、年2回の避難訓練を行うように計画している。運営推進会議では、地域の人々の協力が得られるように働きかけを行っている。	○	避難訓練の際に、地域の人々にも一緒に参加して頂けるようにしていきたい。また、火災だけでなく地震等での避難についても対策を検討していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現在、一人一人のリスクについての把握は出来ている。家族会で、全体的なリスクについての説明は行っているが、個別での説明は行っていない。	○	個別でのリスクに対する対応についての用紙を作成し、ご家族に説明をしていく予定。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、健康管理に努めている。体調の変化や異常時には主治医や看護師に連絡し、指示を仰いだり、記録と申し送り確実に引き継いで、様子観察を行うことにしている。	○	体調の異常時はできるだけ早い対応が出来るよう家族にも連絡したり、早目の受診を行うようにする。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報について、それぞれの個人記録に綴じ込みいつでも確認できるようにしている。内服薬は、看護師の管理の下で、職員から一人一人手渡しをし、内服の確認を行っている。	○	服薬については飲み忘れや間違いの無いよう十分に注意し支援していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量のチェックや、体操などで体を動かしたり、毎朝牛乳の飲用などにより、便秘の予防に取り組んでいる。	○	水分量のチェックや、体操などで体を動かしたり、毎朝牛乳の飲用などにより、便秘の予防に取り組むは続けていきたい。また、便秘の及ぼす影響を理解できるよう、勉強会も行っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、自分で出来る人には歯磨きかみがいををってもらっている。介助が必要な人は毎食後に口腔ケアを行う。寝る前は義歯を洗浄剤につけたり、職員によって丁寧に洗浄を行っている。また、週に1回、歯科衛生士による訪問指導を受けている。	○	継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、一人一人の状態について把握出来るようにしている。また、本人の状態に合わせて、食事の形態を変えるなどして、できるだけ経口摂取ができるよう工夫している。	○	継続していく
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがいの徹底を行うようにし、外部からの訪問者にも玄関前の洗面所に手洗い・うがいをおこなってもらうよう張り出し、紙コップの設置をしている。又、床掃除にはオスバン希釈液を使用し、感染予防に努めている。社の感染対策委員会に定期的に参加し、情報交換や学習の機会を持っている。	○	感染症マニュアルの整備、委員会出席者からの報告を確実にいき、職員が周知できるようにする。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事準備の際に、手洗いを徹底して行う。ふきんやまな板は時々漂白剤を使用して、衛生管理に注意している。また、冷蔵庫の食品には日付を記入して管理し、2日以上たつものは処分している。	○	冷蔵庫の整理日を設けて定期的に食品の処分を行っていく。又、調理器具やふきんについては、週に1～2回曜日を決めて漂白剤を使用したり、食事の準備にかかわる職員や入居者の手洗いの徹底を行い、衛生管理に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	2階に本社事務所があることもあり、建物の玄関は2重の自動ドアになっているため、出入りはしにくくなっている。しかし、玄関ポーチに花や観葉植物を置くなどして和やかな雰囲気になるよう配慮はしてある。	○	近隣のかたがたも親しみやすく出入りがしやすくなるように、玄関周りに花のプランターを置いたり工夫していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音が大きすぎないように配慮している。テーブルに季節の花を飾ったり、壁の掲示板に季節の飾り付けをするなどして、居心地の良い空間づくりをしている。玄関に、入居者が製作された季節の作品を展示したりして、訪問者も楽しめるようにしている。	○	今後も、入居者の皆さんと一緒に居心地よく過ごせる空間作りを行っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く設置し、入居者同士が楽しくおしゃべりをしたり、一緒にテレビを楽しんだりする場所がある。又、リビングの片隅に一人で外を眺められる空間があり、思い思いに過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使用されていたなじみの家具を持ってきて頂いたり、家族の写真を飾るなどして、居心地の良く過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	出来るだけ窓を開放し換気出来るよう努めている。トイレの換気扇の利用や汚染があった場合はその都度清掃し、においがこもらないようにしている。室温や、そのときの利用者の状況によりエアコンを利用するなどして調整をしている。	○	換気には常に気をつけ、気持ちの良い環境で過ごしていただけるように配慮を行う。また、健康状態に注意しながら室温調整をこまめに行っていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関を上がったら、フロア内はバリアフリーと成っており歩行器や車いすでも通行しやすくなっている。また、トイレ・洗面台・浴室・廊下には手すりが設置してあり、ご本人が自立して安全に過ごせるように工夫している。	○	入居者の自立を妨げないようにしながら、安全に過ごせるよう、環境の整備を行っていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には表札で名前の表示をしている。トイレの電気や開閉の仕方について記入したものをドアに貼って、混乱を防いでいる。	○	文字に書くことで、理解できるものが多々あるので、能力を活かして安定した生活できるように工夫していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは、入居者が自由に出入りでき、洗濯ものを干したり、取り入れがしやすいようにしている。プランターや北側テラス前に花を植え毎日の水やりをしたり、テラスに座って、ハウス前の花畑を見学できるスペースとして活用している。	○	野菜の苗を植えて、苗の生長や実が成るのを楽しみにし、収穫を入居者と一緒に楽しめるようにしたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・「個人の尊厳」を第一に考え、ご利用者お一人お一人のペースに合わせ、安心してすごしていただけるよう、日々の実践に取り組んでいる。
- ・医療連携加算をとっており、ご利用者の健康管理には十分注意し、早い対応が出来るように努めている。また、重度化や終末期における介護、または看取りについても、ご家族や主治医との話し合いを十分に行いながら、積極的に対応していきたい。